

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシムシガの越冬調査結果（技術情報第1号）について（送付）

3月下旬に実施したイグサシムシガ越冬調査の結果、越冬世代密度がやや高い傾向が認められます。調査結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にしてください。

記

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量 平年比やや多
越冬世代成虫の発蛾最盛日 平年並

- (1) 幼虫及び蛹の発生密度は、3.9頭/10m²(平年2.6頭/10m²)と平年比やや多の発生であった。なお、越冬世代密度はここ数年漸増傾向にあり、一部に密度の高いほ場も認められることから、ほ場内の発生に注意し、第1・2世代幼虫を対象とした防除を実施する(表2、図1)。
- (2) 蛹化が確認された八代地域の越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4月17日)とほぼ同じ4月18日と予測された。なお、宇城、球磨地域では、蛹が確認されず発蛾最盛日の予測はできなかった(表1)。

2 防除対策

- (1) 4月の第1世代幼虫の防除を徹底することで、「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生を抑えることができる。
- (2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から7日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。
- (3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

今後のイグサシムシガに関する情報(積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ)については、病虫害防除所のホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto>)に随時掲載しますので御覧ください。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

	八代地域		宇城地域		球磨地域	
	蛹化率	発蛾最盛日	蛹化率	発蛾最盛日	蛹化率	発蛾最盛日
本年	18.0	4月18日	0.0	-	0.0	-
昨年	3.0	4月21日	0.0	-	0.0	-
平年	18.5	4月17日	13.7	4月12日	8.0	4月19日

注) 発蛾最盛日: 50%蛹化日+16.7日(蛹期間の平均気温が18℃の場合)
50%蛹化日: (50% - 調査日の蛹化率) ÷ 蛹化の増加率 + 調査日 - 31日
蛹化の増加率: 5%(1日平均)

表2 イグサシムシガ越冬調査結果

	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	10m ² /頭数	茎数/株
1	八代市	野崎	100	3	2	0	2	5.6	63
2		津口	100	0	0	0	0	0.0	71
3		内田	100	1	0	1	1	2.8	37
4		下有佐	100	0	0	0	0	0.0	87
5		平和	100	0	0	0	0	0.0	64
6		鼠蔵	100	0	0	0	0	0.0	46
7		高田	100	1	0	1	1	2.8	33
8		日奈久	100	0	0	0	0	0.0	67
9		郡築4	100	14	12	0	12	33.6	64
10		日進町	100	6	2	0	2	5.6	43
11		北新地	100	0	0	0	0	0.0	39
12		八代新地	100	1	1	0	1	2.8	86
13		川田	100	0	0	0	0	0.0	57
14		太田郷	100	17	4	0	4	11.2	55
15		竜峰	100	12	0	5	5	14.0	58
16		大牟田	100	3	0	0	0	0.0	56
17	氷川町 (旧竜北町)	若洲	100	0	0	0	0	0.0	41
18		西網道	100	1	1	0	1	2.8	61
19		島地	100	0	0	0	0	0.0	55
20		野津	100	1	1	0	1	2.8	53
21	宇城市	松橋町浅川	100	1	1	0	1	2.8	54
22		小川上住吉	100	0	0	0	0	0.0	51
23		小川三軒屋	100	0	0	0	0	0.0	64
24	あさぎり町	岡原南	100	1	0	0	0	0.0	57
25		岡原北	100	2	0	0	0	0.0	24
26		免田	100	5	5	0	5	14.0	38
計			2600	69	29	7	36	3.9	55

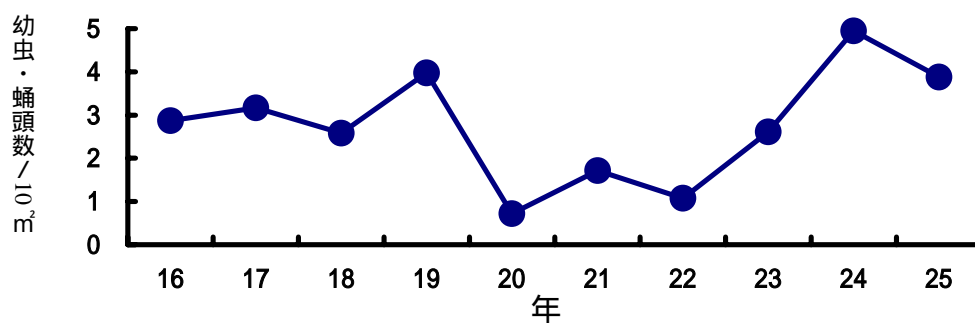


図1 越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所（生産環境研究所）
 担当：加賀山、清永
 TEL:096-248-6490